Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●宝塚記念はタイトルホルダーがレコードで優勝

６月26日(日)に行われた宝塚記念(ＧⅠ)ではタイトルホルダー(牡４歳／美浦・栗田徹厩舎)が優勝しました。勝ちタイム２分９秒７は、2011年の宝塚記念でアーネストリーが記録した２分10秒１を更新するコース／レースレコード。鞍上・横山和生騎手の祖父である横山富雄元騎手は1971年メジロムサシで、父の横山典弘騎手は1991年メジロライアンと2014年ゴールドシップで宝塚記念を勝利しており、親子三代での宝塚記念制覇は史上初のこととなります。

●西村淳也騎手がＪＲＡ通算200勝達成

６月25日(土)の３回阪神３日・第４レースではキングロコマイカイが１着となり、同馬に騎乗した西村淳也騎手(栗東・フリー)は、現役62人目となるＪＲＡ通算200勝(2744戦目)を達成しました。

●小坂忠士騎手がＪＲＡ障害通算1000回騎乗を達成

６月25日(土)の３回東京７日・第８レースとして行われた東京ジャンプＳ(Ｊ・ＧⅢ)でテーオーソクラテスに騎乗した小坂忠士騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上17人目、現役では９人目となるＪＲＡ障害通算1000回騎乗を達成しました。

●西村真幸調教師がＪＲＡ通算200勝を達成

６月25日(土)の３回東京７日・第１レースではスズカダブルが１着となり、同馬を管理する西村真幸調教師(栗東)は、現役105人目となるＪＲＡ通算200勝(延べ2118頭目)を達成しました。

●柴田未崎騎手が引退

柴田未崎騎手(栗東・飯田雄三厩舎)が６月30日(木)をもって引退しました。ＪＲＡ通算成績は3173戦94勝で、今後は栗東・大橋勇樹厩舎で調教助手となる予定です。

●デゼルの競走馬登録抹消

2021年サンケイスポーツ杯阪神牝馬Ｓ(ＧⅡ)の勝ち馬デゼル(牝５歳／栗東・友道康夫厩舎)は、５月20日(金)付で競走馬登録を抹消されました。ＪＲＡ通算成績は13戦４勝で、今後は北海道千歳市の社台ファームで繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●伏兵メイショウハリオが帝王賞(大井)でJpnⅠ初制覇

帝王賞(JpnⅠ、６月29日、大井、2000㍍)は、４番手前後から残り200㍍を切った辺りで先頭に立った５番人気のメイショウハリオ(浜中俊騎手、牡５歳、父パイロ)が、内で食い下がる３番人気のチュウワウィザードをクビ差抑え、JpnⅠ初制覇を果たしました。２番人気のオメガパフュームが３着に入り、単勝1.5倍で断然人気の昨年の覇者テーオーケインズは差のある４着、クリンチャーは５着、スワーヴアラミスは７着、逃げたオーヴェルニュは最下位の９着に敗れています。

●栄冠賞(門別)は最低人気のコルドゥアン【各地の主要２歳重賞】

今年全国初の２歳重賞、栄冠賞(６月28日、門別、1200㍍)は、最後方から直線で大外を通って追い込んだ14番人気のコルドゥアン(牡、父プレティオラス)が、ゴール寸前で先行勢をハナ差捉えました。コルドゥアンはデビュー戦を勝ったものの、続く２戦が６、７着と振るわず、今回は単勝310.1倍と全く人気がありませんでした。

●７月６日のスパーキングレディーＣにショウナンナデシコが登場

スパーキングレディーＣ(JpnⅢ、７月６日、川崎、1600㍍)は、58㌔でも前走のかしわ記念を制したショウナンナデシコが最有力、以下昨年の覇者サルサディオーネ(大井)、レーヌブランシュ、レディバグ、キムケンドリーム、アールロッソ(船橋)までが争覇圏内と考えられます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１愛ダービー～ウエストオーバーが完勝

現地６月25日にアイルランドのカラ競馬場で行われたＧ１愛ダービー(３歳牡・牝、芝2400㍍)は、イギリスから参戦したウエストオーバー(牡３歳、父フランケル)が道中２番手追走から直線で楽に抜け出して７馬身差で完勝しました。ウエストオーバーは今年４月のＧ３クラシックトライアル(芝1990㍍)で重賞初制覇。続く前走のＧ１英ダービーは直線で行き場を失う場面があってデザートクラウンの３着に敗れていました。鞍上のＣ.キーン騎手、管理するＲ.ベケット調教師はともに愛ダービー初制覇です。

●フランスのアレック・ヘッド氏が死去

フランス競馬界の大立者だったアレック・ヘッド氏が97歳で亡くなったことが６月22日に明らかになりました。ヘッド氏は仏チャンピオントレーナーの座に４度君臨(1952～55年)。凱旋門賞にも４勝(1952年ヌッチョ、59年セントクレスピン、76年イヴァンジカ、81年ゴールドリヴァー)をあげました。生産界にも大きな足跡を残し、58年に購入したケスネー牧場からは凱旋門賞連覇のトレヴを筆頭に多くの活躍馬が登場。リヴァーマン、ハイエストオナー、アナバーといったトップ種牡馬も供用されました。なお、仏チャンピオンジョッキー６度のフレディは息子、86年の仏チャンピオントレーナーで、トレヴを管理したクリケットは娘です。